

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：

企画名
0からはじめる木工体験
実施日
令和6年11月3日(日)、令和7年1月21日(火)
実施場所
広島大学 総合科学部 東講義棟 K203 (R6/11/03)、おもしろラボ (R7/1/21)
企画代表者の氏名、所属
氏名： 花原巧都 所属：工学部第四類 都市・建築計画学研究室
構成員の氏名
焦子鉦、榎優志、中野瑞希、十河臣吾、茶川祐弥、西岡航生、山田紘平、李雨姻、佐藤更彩、竹熊樹、濱野喜史、東山公美、藤田 樹、漬崎礼菜、王茜葦、西村紀彦、秋山友希、網島雄真、田守希花、花原巧都、土居秋穂、友定真由、佐藤秀弥、佐藤峰里、小林敬弘、田中日菜、黒木爽
指導的立場の教員氏名 ※報告内容をご確認の上、ご署名または記名・押印をお願いします。
角 倉 英 明
企画の目的及び内容
【目的】 本企画は、学生と地域の人々が連携して行う木工ワークショップであり、道具の取り扱いや技術の学びを通じた、世代を超えた交流の場をつくることを目的としている。実際の現場で使われている普段触れられないような道具を使ってオリジナルの製品を製作するといった貴重な体験ができる。このワークショップを通して道具の使い方を学ぶことができるだけでなく、木の特性や、ものづくりのおもしろさを知ることができる。 【企画内容】 本企画では、あらかじめ一部の構成員が家具職人の下で工具の扱い方を学んだ上で、学生主体でワークショップを行う。令和6年11月3日の学祭では、地域の人々に木製のお箸およびスプーンの製作体験を行ってもらう。令和7年1月21日のおもしろラボでの開催時では、本研究室の構成員に木製の皿の製作体験を行ってもらう。手順は以下のようにして取り組む。 ①一部の構成員は家具職人の下で工具の扱い方を学ぶ ②当日使う木材の選定、サイズの調整 ③木工ワークショップの開催
来場者数
【R6/11/03】地域住民など89名、【R7/1/21】構成員内23名

主催・後援団体（外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模）

本企画は株式会社 sakurasaku と建築学プログラム 都市・建築計画学研究室(角倉・石垣ゼミ)による共同プロジェクトである。

活動の内容（準備、広報活動、当日の様子等）

1. 2024 年 11 月 3 日

R6/11/3 のワークショップでは木製のお箸とスプーンの製作体験を次の手順で行った。

[工程①]

ご自身で使いたい木材を選ぶ。

[工程②]

工具の扱い方を学ぶ。

[工程③]

軍手を装着したうえで、かんなで箸の太さを自分好みに調節する。

[工程④]

紙やすりで形の微調整を行う。

[工程⑤]

オイルでコーティングする。



2. 2025 年 1 月 21 日

R7/1/21 のワークショップでは木製のお皿の製作体験を次の手順で行った。

[工程①]

ご自身で使いたい木材を選ぶ。

[工程②]

軍手を装着したうえで、のみでお皿の凸凹を整える。

[工程③]

紙やすりで形の微調整を行う。

[工程④]

オイルでコーティングする。



「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

アンケートの結果（来場者にアンケートを実施した場合のみ）

実施していない。

成果・課題

想定以上の多くの人に足を運んでいただいた。結果、運営側の人員不足、工具の数不足などにより長時間の待ち時間が発生してしまうといった課題がみられた。しかし、体験をされた人の中には、チラシでこのワークショップがあることを知り、ここに来るために学祭に来たというご家族や、モノづくりに夢中になるきっかけになったお子様もいて、運営側だけでなく、来場者にとっても貴重でかけがえのない体験になった。また、運営側においても、来場者と工具の使い方を教えることで感謝されたり、もっとコツを教えてほしいとより興味をもってもらえたりと、たくさんのコミュニケーションをとることはできた。中には、この所属している研究室の質問やそのほかの活動に関して質問してくださる方も多く、地域の人々と交流できた貴重な日となった。

別日に行った皿作りワークショップでは、皿を深く掘るには時間と力が必要で苦労していたが、自分好みの皿を作ろうと熱心に作業を進め、それぞれが思い思いの皿を完成させており、木工の良さ、ものづくりの楽しさを学ぶ機会となった。

実施風景（写真）



【提出方法】 指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください。

E-mail でも受け付けます。

【提出先】 工学系総括支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)